

## TNTmips Pro : コントロールポイントを、ポイントのベクターデータにする

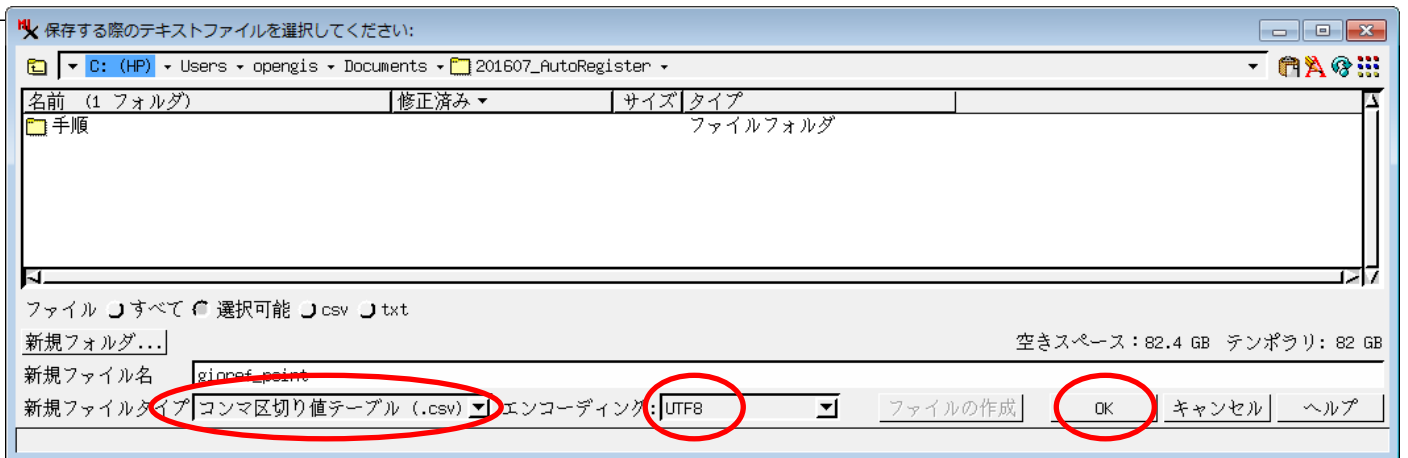
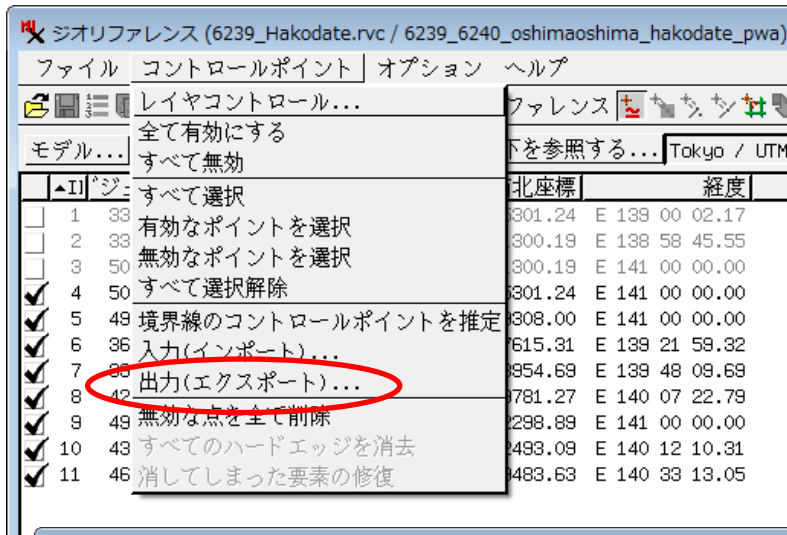
ジオリファレンスしたコントロールポイントを、

[エクスポート]→CSV ファイル→テキスト調整→データベーステーブルにインポート→ベクタに変換  
の手順でポイントベクタにします。

### (1) コントロールポイントを CSV ファイルに保存する

ジオリファレンス処理のメインウィンドウで、コントロールポイントを抽出するジオリファレンス済みデータを開きます。

コントロールポイント > エクスポート > ファイル名を入れて、csv(UTF8)で保存



### (2) csv ファイルのテキスト修正

csv ファイルをテキストエディタ(またはエクセル)で開きます。

一行がこのようになっています。

はい,4,500000.00,4575301.24,500000.00,4575301.24,E 141 00 00.00,N 41 20 00.00,0.00,62.84

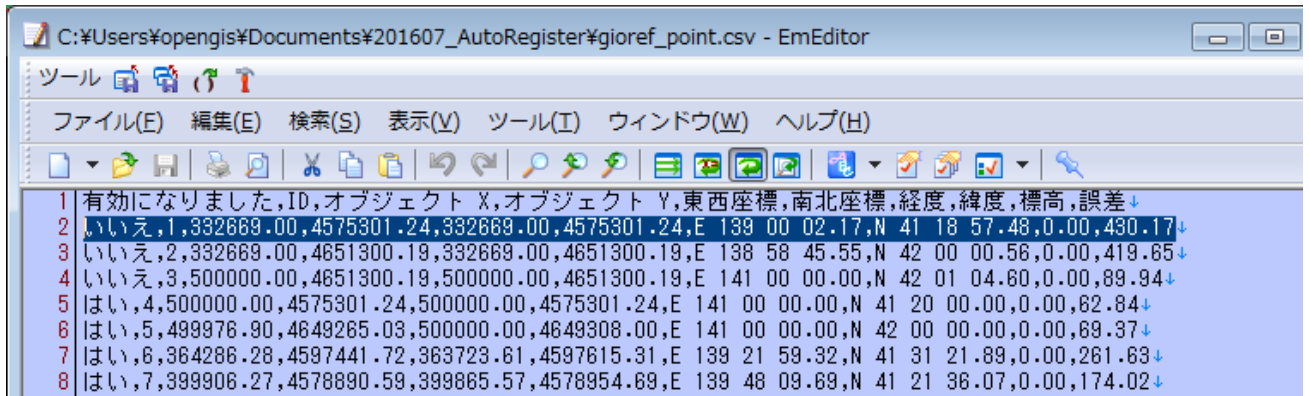
「E 141 00 00.00,N 41 20 00.00」

の間にある半角スペースが不要なのでとります。(全体から半角スペースを置換処理)

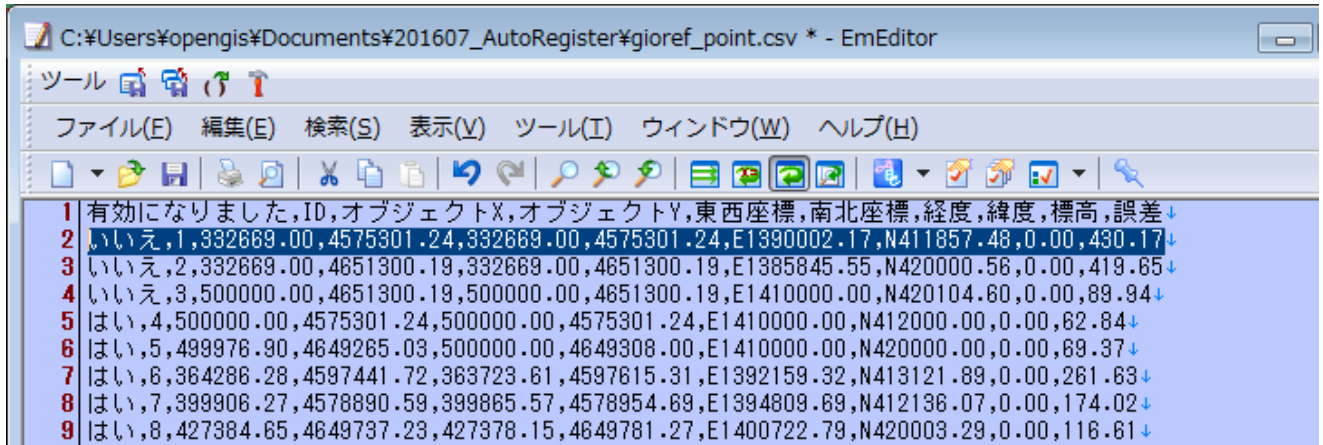
一行がこのようになります。

はい,4,500000.00,4575301.24,500000.00,4575301.24,E1410000.00,N412000.00,0.00,62.84

### 修正前テキスト



### 修正後テキスト

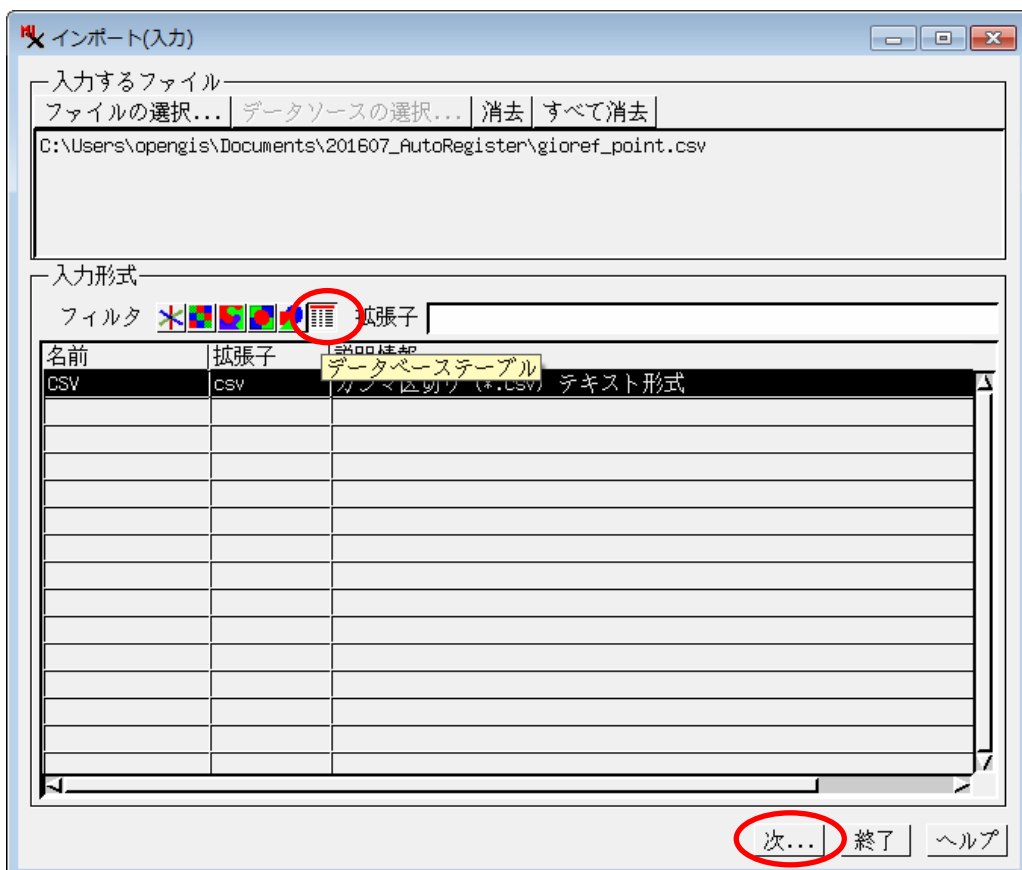


(3) CSV ファイルをインポートして RVC ファイルにします。

メイン>インポート

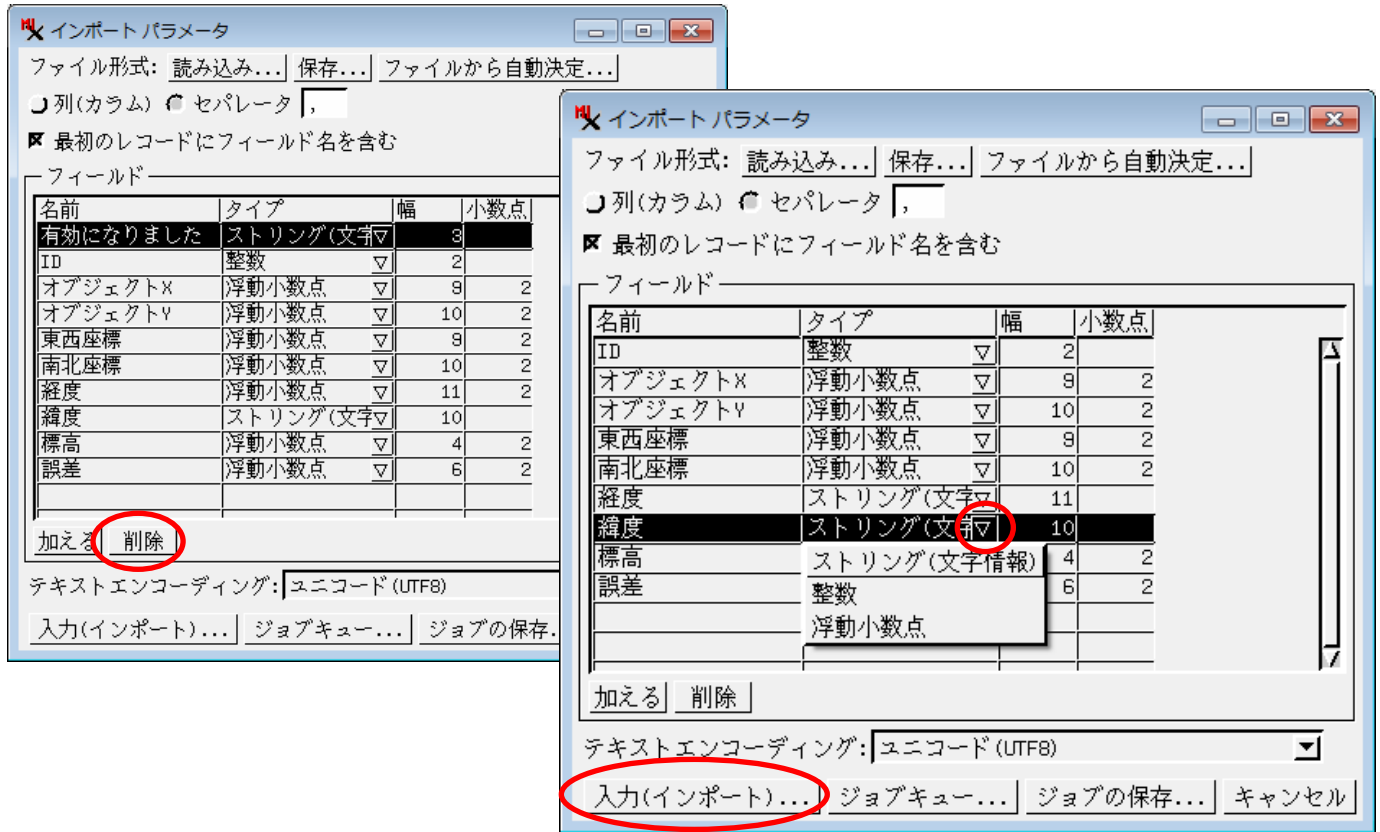
入力するファイル > (2)で修正した CSV ファイルを選択します

入力形式 > データベーステーブル > CSV を選択して、「次...」へ



先頭のフィールドを削除します。

行を選択（反転）して、[削除]をクリックします。



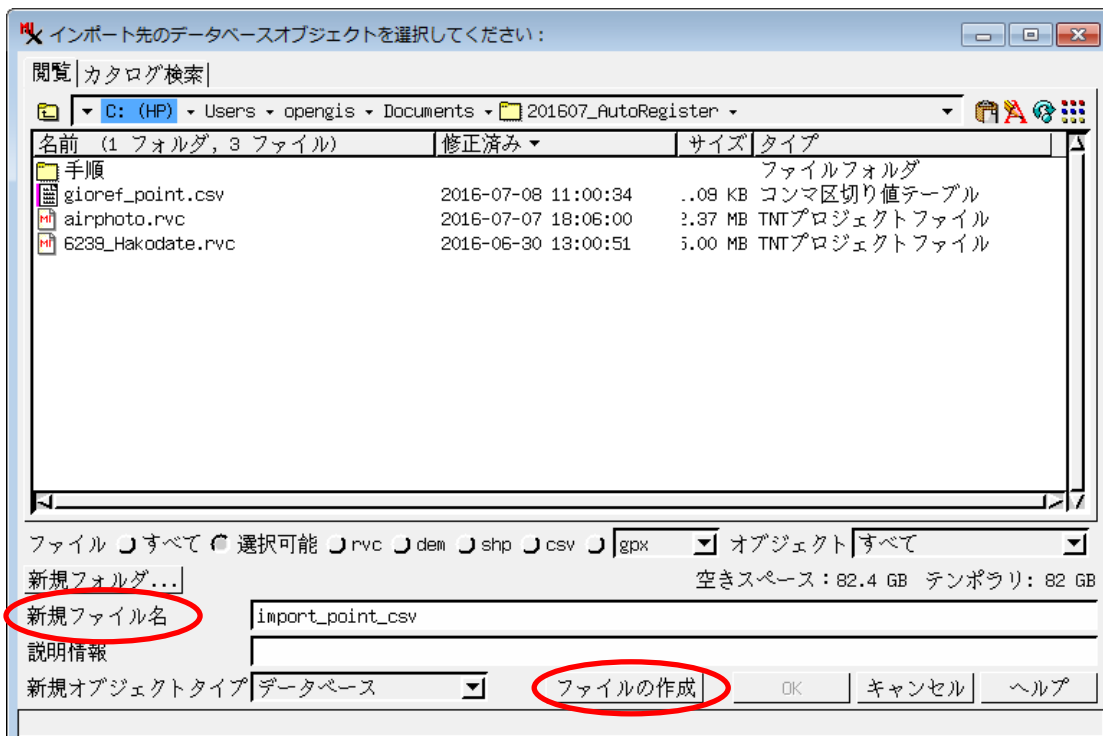
フィールドのタイプを指定：経度、緯度は、**文字列 (文字情報)**

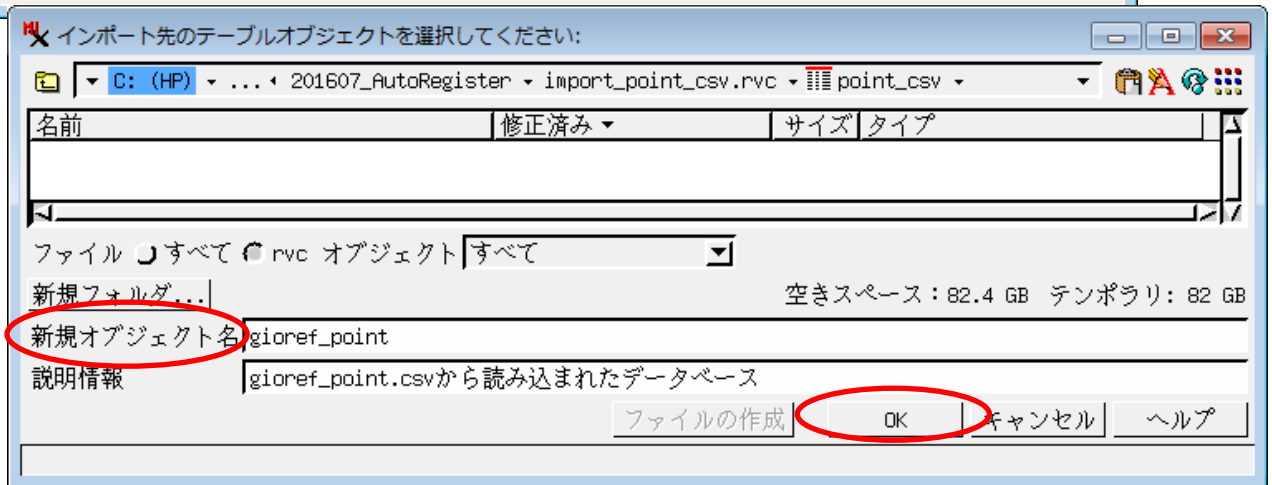
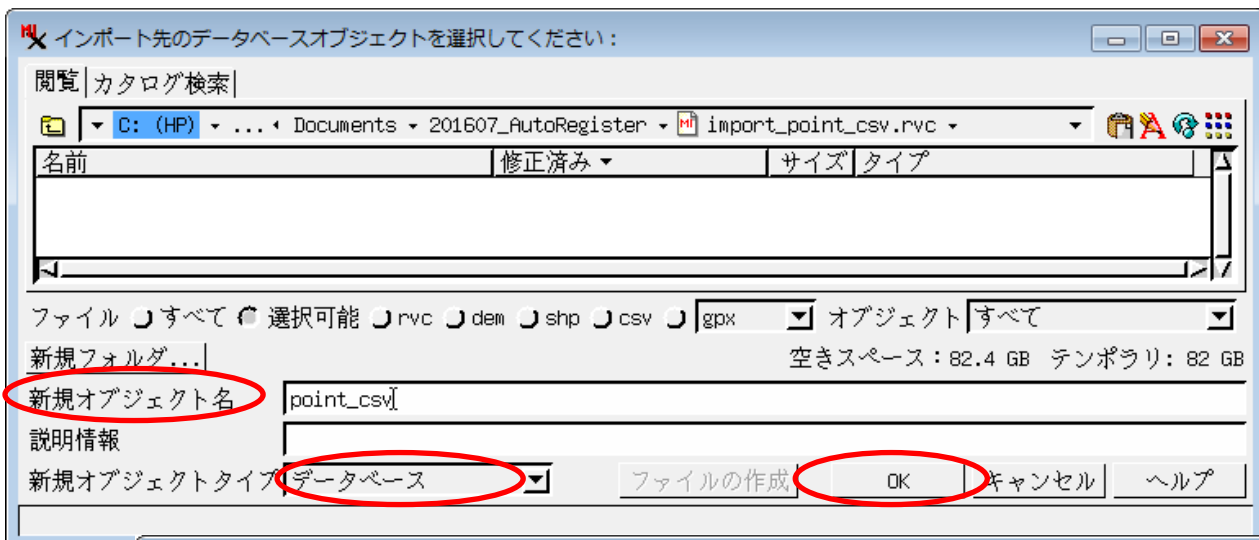
テキストエンコーディング： > **ユニコード(UTF8)**

「入力 (インポート)」をクリックします。

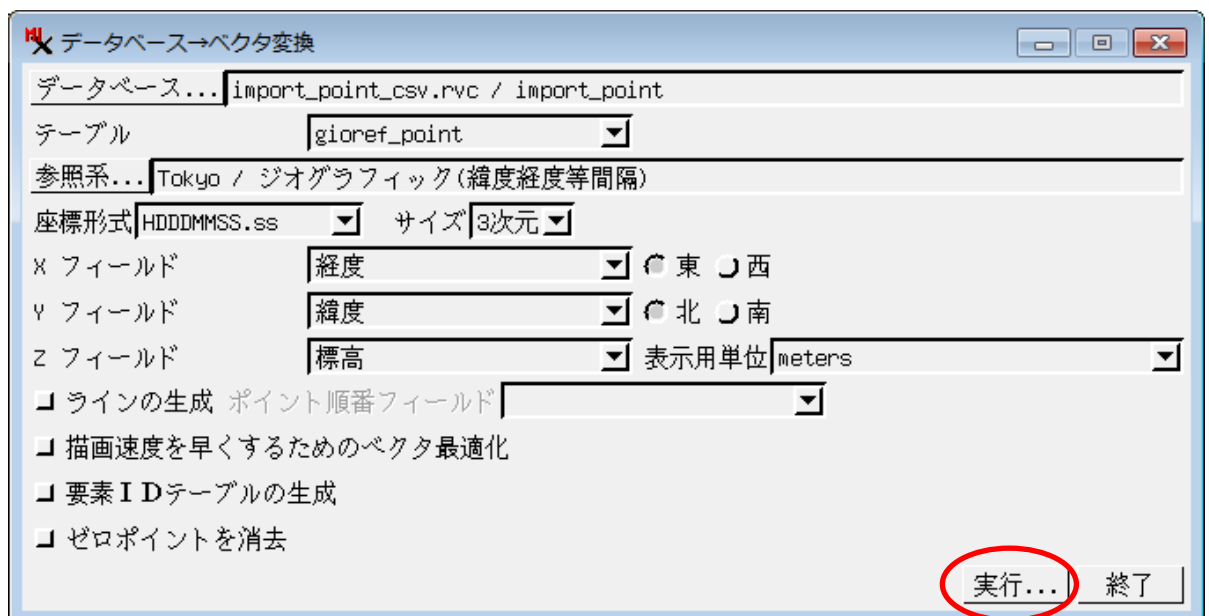
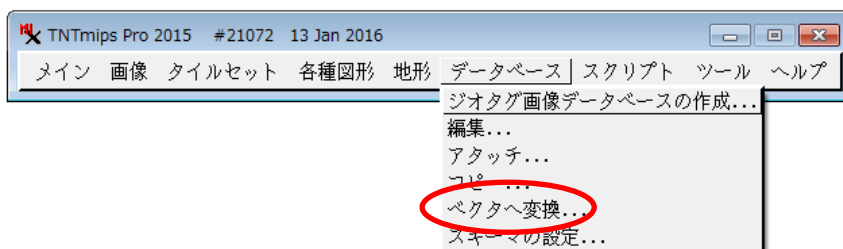
RVC ファイルに保存します。

保存するファイル名、オブジェクト名を入力します。 > 「OK」> 「終了」





#### (4) データベース>ベクタへ変換



データベースに、(3)で作成したオブジェクトを選択  
 テーブル名を指定  
 参照系を指定  
 サイズ> 標高データがあれば 3 次元、なければ 2 次元  
 X,Y,Z フィールドを指定  
 座標形式> HDDMMSS.ss

「実行...」をクリック> 新規ファイル名を入力> オブジェクト名を入力> 「OK」> 「終了」

(5) できたポイントベクタを表示、もとにしたデータを重ねて表示して、位置を確認

